



## Blooming Space

# KADOがつくる、新しい空間デザインのかたち。

フラワーデザイナー角浩之氏がプロデュースするコレクションブランド〈KADO〉が誕生。既存にはない「花」による空間演出をするクリエイションとはいかに？

photo\_Muga Miyahara (Image) editor\_Akane Maekawa

# 斬

新さと強烈な個性で、話題を集めてきたフラワーデザイナー角浩之さん。彼が主宰するショップ〈KADO〉の10周年を機に、空間演出をも提案する新たなブランド〈KADO〉を始動させた。早速、表参道にオープンしたニール・バレット青山店の空間を舞台に、インスタレーションに挑戦するとのこと。その現場に潜入。そこで角さんに、〈KADO〉を知るための5つのことを聞いた。

**Q** 〈KADO〉を始動したわけは？  
**A** フラワーアレンジメントの世界では表現しきれない、花を取り巻く環境、つまり花で空間演出したいと思い、立ち上げました。

**Q** 〈KADO〉の特徴は？  
**A** 目指しているのは、一枚の絵のような風景。作品が残像として心に焼きつくこと。マチルダでは、ファッション性や流行を取り入れてきましたが、〈KADO〉は流行に左右されない、自分が持つ感性に重点を置いています。

**Q** 作品で大切にすることは？  
**A** 色の感覚。空間を見たとき、まず色が頭に浮かびます。今回は黒と白のストイックなスペースだったので、シャープなグリーンと茶をメインにしようと思いました。そこから、色の配置やボリューム感、フォルムなどを考えていきました。また、〈KADO〉では、季節の旬な花の使い方をすることで、強い印象を残すことで空間を演出することも大切にしています。

**Q** 〈KADO〉の作品はアート？  
**A** アートという位置づけはしていません。空間とともに花をより身近なものであると感じてほしいです。制作するとき、デッサンや小さな模型を何度もつくります。そういう点では、建築家に近い考え方をしているのかもしれませんが、今後さらに目指すものは？

**Q** 存在しない空間に挑戦したいです。例えば、ビルの隙間やスクランブル交差点など。花によってどう空間が変化し、新しい風景が生まれるのを見てみたいです。

**Q** 今後さらに目指すものは？  
**A** 存在しない空間に挑戦したいです。例えば、ビルの隙間やスクランブル交差点など。花によってどう空間が変化し、新しい風景が生まれるのを見てみたいです。

**角 浩之**  
かどひろゆき 〈KADO〉デザイナー。フラワーヘブン代表。1964年生まれ。85年フローラルビジョン入社。ウィンドウディスプレイやファッションショーなど大型の装花を担当。93年フラワーヘブンを設立し独立。98年ショップMatildaをオープン。2008年11月〈KADO〉を立ち上げる。

KADO/フラワーヘブン ●東京都目黒区青葉台1-15-1 AK-1 annex 1F ☎03-5456-1187。http://www.kadohiroyuki.com/

〈KADO〉によるインスタレーションは、ニール・バレット青山店にて12月25日まで展示予定（※現在の展示作品は、写真と一部異なる場合があります）。●東京都港区南青山3-17-6 ☎03-5474-0051。11時30分～20時。無休。